

図書館教育研究部会

I 研究テーマ 『本好きな子どもを育てるための実践的研究』

II 研究テーマ設定の理由

甲府市には、市立図書館の他に昨年新県立図書館も開館し、子どもたちが本を手に取りやすい恵まれた環境が整っている。学校教育においても朝読書の普及・充実により、子どもたちが図書館を利用し、本に接する機会を増やしていくための取り組みが行われている。しかし、子どもたちの周りにはゲームやテレビ・インターネットなどの刺激が常にあり、活字離れが進んでいることも否定できない。

そこで、本に興味をもたせるための5つの手立てを検証しながら、読書を通して日常では経験できない新しい世界に触れる楽しさを知ってほしいと願い、本テーマを設定した。

III 研究の経過と内容

4月11日	全体会	今年度の部会運営	役員・テーマ等について
5月14日	全体会	研究の方向性	グループごとの研究内容・年間計画について
6月18日	第1回グループ研究会		
7月31日	第2回グループ研究会		
8月16日	第3回グループ研究会	合同講演会	講師 青柳啓子様 「読書のアニメーション体験講座」
9月 3日	第4回グループ研究会		
10月 1日	第5回グループ研究会		
11月 5日	第6回グループ研究会		
1月21日	全体会	各グループの研究経過及び実践内容の報告	研究のまとめ

1 ブックトークグループ（班員 16名）

- ・教育課程に寄与するためのブックトークの実践

2 パネルシアターグループ（班員 25名）

- ・本好きな子どもを育てるための実践的研究 ～パネルシアターの実践を通して～

A班「はんぶんこ」 TERUKO ～てるこ～：作

B班「ぶんぶん ぶるるん」 バイロン・バートン：作 手島悠介：訳

C班「カエルくんのみずたまり」 宮西達也：作・絵

D班「十二支のはじまり」 谷真介：文 赤坂三好：絵

3 アニメシオングループ（班員 24名）

- ・アニメーションを通して本好きな子どもを育てるための実践的研究

低学年： 作戦名『これ、だれのこと？』 使った本『にんげんごっこ』

高学年： 作戦名『クイズ大作戦』

使った本『くまの子ウーフの絵本「おかあさん おめでとう」』

4 読み聞かせグループ（班員 10名）

- ・本の魅力を伝えるための読み聞かせの研究

5 読書指導グループ（班員 24名）

- ・本好きな子どもを育てるための実践的研究

IV 研究の反省と課題

1 グループごとの反省と課題

(1) ブックトークグループ

- ・テーマに沿って物語や図鑑などの様々な種類の本を紹介することで、子どもたちの本に関する関心を高め、読書の幅を広げることができた。
- ・読書活動を促すだけでなく、教育課程に即したテーマで行うことで、他の学習に対する導入となって興味や関心を高めたり、学習後の発展的な学習につなげることができた。
- ・ブックトークの実践を行う中では、教育課程や児童の実態に即したテーマや本を選ぶことが難しかった。しかし、各学校の実践報告を聞くことで、知らない本をいろいろと知ることができ本に関する知識が広がったので、今後のブックトークに生かしていきたい。
- ・今後は、時事などにも触れることで、子どもたちが世の中の動きにも関心をもつことができるような内容を考えていきたい。

(2) パネルシアターグループ

- ・パネルシアターの制作では、目に表情をつけたり両面で向きに変化をつけるなど、様々な工夫をすることができてよかった。
- ・図書委員会などの子どもたちも、上演することができるパネルシアターを制作することができた。
- ・パネルシアターを制作する際、著作権利用許可申請書を出版社に提出し、承諾書をもっていたが、その承諾書の保管は各班がそれぞれ行っていた。今後は、各班の承諾書をまとめて保管しておいた方がよい。
- ・どこを見せて、どこを想像させるのかを考えながら制作した方がよい。
- ・他教科との関連をもたせてパネルシアターが教科の入り口となるように本を選定する。
- ・人気のある絵本を動画にする必要性を感じないので、本の選定は慎重にすべきである。

(3) アニマシオングループ

- ・低学年の実践では、集中して読み聞かせを聞いたり、友達と楽しそうに相談し合ったりする姿が見られた。いつもおとなしい児童がリードしてゲームを進める場面が見られたり、普段の友達関係とは違う仲間と相談しながら場所を移動したりするなど、自然でほえましい場面がみられた。
- ・高学年の実践では、児童が絵本を何度も読み返し、深く読み込んでいた。トランプを使ってチームを決めたので、あまり交流のない児童と関わったり、話し合いを通して意見

を交換したりすることで、学級づくりにも有効だと感じられた。児童の感想には、仲間との知的な共同作業の体験に喜ぶものが多かった。

- ・同じ本が何冊かあると、アニメーションのときに児童が自分たちで見て確認したり、その後自分で本を読み返すことができるのでよい。

(4) 読み聞かせグループ

- ・司書の先生方の参加により、話題の本や新刊の情報などを知ることができた。紹介してもらった本を自校に購入してもらうことができた。
- ・県立図書館での研修では、館内の様子や学校図書館との連携について知ることができた。読み聞かせの技術を基礎から学ぶことができ、自分たちの読み聞かせの仕方を見直すきっかけになった。発達段階に応じたプログラム例を紹介してもらい参考になった。
- ・実際に読み聞かせをしている様子を見たかった。自分が読み聞かせをしても、声の大きさや抑揚、感情の込め方など、様々な面で疑問が残る。模擬授業のような形で読み聞かせをする機会があれば良かった。
- ・読み聞かせのもつ効果、国語科（平行読書）との兼ね合いの中の読み聞かせ、公立図書館や大学図書館子ども室との連携などにより実践的な研究の見通しをもちたい。

(5) 読書指導グループ

- ・今年度の研究では「リテラチャー・サークル」と「ビブリオバトル」という二つの新しい手法について知り、実際に挑戦することができたことが大きな成果である。
- ・「リテラチャー・サークル」については、資料の準備に手間がかかるという課題も出たが、国語の授業の中で「本の読み方」を学ぶことができるということがわかった。
- ・「ビブリオバトル」は「日常の生活のなかで実践できる」総合的な言語活動と捉えることができることがわかってきた。
- ・来年度は、【「ビブリオバトル」の実践を実際に生徒たちと行うという方向性】が見えてきた。堅苦しい本の紹介だけでなく、様々なジャンルでの実践や図書委員会・集会活動としての実践にも挑戦していきたい。「自分の好きな本」を熱く語り紹介する活動を通じて、本好きな子どもを一人でも多く育てるという読書指導の目的につなげたい。

2 まとめ

「本好きな子どもを育てるための実践的研究」という統一テーマに、5つの手法を用いて迫っていった。各グループごとに手法はそれぞれ異なっていたが、一人でも多くの子どもの本に親しみ、本の世界を楽しめるようにするために、実態に合った本選びや手立ての工夫をするという部分は共通であった。実践を通して本の世界に引き込まれた子どもたちの様子や、その後に紹介された本を手取る子どもたちの姿が報告された。本の楽しさを実感し、読書の幅を広げる手立てになったのではないかと思う。と同時に、実践を続けていくことの必要性も痛感した。また5グループ合同で青柳啓子様を講師にお招きし、アニメーションの作戦を体験・学習したことは、日々の実践につなげることができ大変有意義であった。